

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	28人	算数	28人	理科	28人
第5学年	国語	24人	算数	24人	理科	24人

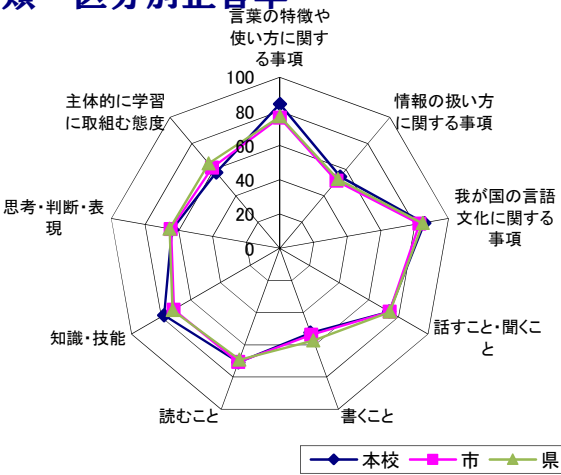
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内東小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	84.3	76.4	77.0
	情報の扱い方にに関する事項	54.8	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	85.7	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	73.8	74.1	74.2
	書くこと	52.4	53.7	57.2
観点	読むこと	70.8	70.7	69.2
	知識・技能	78.1	71.6	72.3
	思考・判断・表現	64.0	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	57.9	61.6	64.7



★指導の工夫と改善

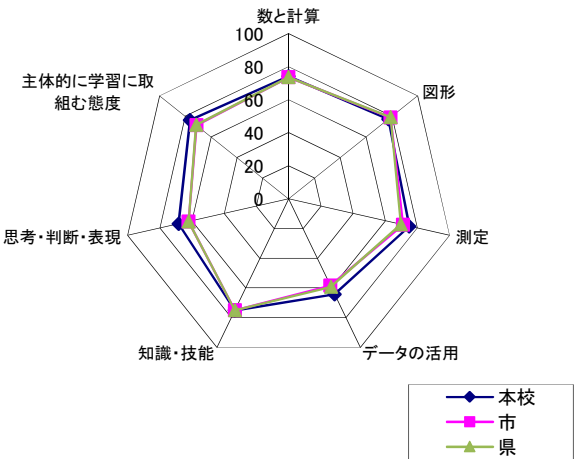
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○漢字の読み書きに関しては、ほぼ全ての内容で、県の正答率と同等か、上回っていた。	・今後も音読や読書、国語辞典や漢字辞典の活用などを日常的に心がけ、言語の獲得の援助を行っていく。
情報の扱い方にに関する事項	○国語辞典の使い方の理解、文脈からキーワードを見つける、情報間の関係性を捉える設問において県の正答率とほぼ同等であった。	・文章の中心となる言葉を四角で囲んだり、中心文を見つけたりする活動を通して、繰り返して指導していく。
我が国の言語文化に関する事項	○漢字のへんやつくりの理解では、県の正答率とほぼ同等であった。	・漢字の学習に関しては、日常での指導を続け、ドリルでの復習を繰り返すことで更なる定着を図っていく。
話すこと・聞くこと	○話し手が伝えたいことの中心を捉える問題では、県の正答率を10ポイント以上上回っている。 ●相手に伝わるように、自分の考えや理由を挙げながら話すことの問題では、県の平均を下回った。	・聞くことに関してはキーワードに気を付けながら話の中心を捉えることはおおむねできていると言える。自分の考えや考えの理由を伝えることに関しては、短文を作ったり、スピーチを繰り返したりしながら経験を増やすことで少しずつ身に付けさせていく。
書くこと	○調べることを文章にまとめる問題では県の正答率と同等であった。 ●自分の考えを明確にして文章を書く、指定された長さで文章を書く問題に関しては、県の正答率を下回った。また、無回答率が25%あり課題があると言える。	・記述の問題であるので、問題に慣れていないことも考えられる。字数を決めて文を書いたり、考えを明確にする練習を意図的に授業でも取り上げて、苦手意識を減らしていく。
読むこと	○物語の内容を読み取り場面の様子を問う問題では、県の正答率を上回っている。 ●説明文の内容を読み取る問題では、県の正答率を下回った。	・物語は読書を通して身近に感じている児童は多い。読書の幅を少しずつ広げながら、説明文にふれる機会を増やしていきたい。また、段落どうしを関連付けて文章構造を捉えることなどは、国語の学習でも意図的に指導をしていきたい。

宇都宮市立上河内東小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	74.1	73.5	73.6
	図形	77.4	79.0	79.1
	測定	75.0	71.1	69.8
	データの活用	64.3	58.4	59.2
観点	知識・技能	75.1	75.0	75.0
	思考・判断・表現	68.4	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	76.5	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

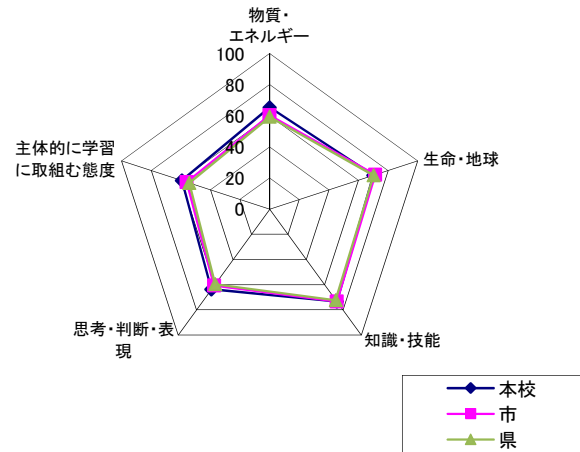
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○小数の仕組みや相対的な大きさを比べる問題では、県の正答率を上回っている。 ○2けた÷1けたの余りの無い計算では、県の正答率を上回っている。 ●分数を数直線上に表す問題では、県の正答率を下回っている。 ●整数－小数第一位の計算では、県の正答率を下回っている。	・ノート指導を通して丁寧に位取りをしながら計算する習慣を定着させたり、見直しや確かめ算に取り組む機会を設けることで、正確性が向上するようにする。 ・数直線を利用して復習する機会を設けることで、分数や小数の意味を理解できるよう指導を続けていく。
図形	○円の半径の理解では、県の正答率を上回っている。 ●正三角形の作図については、県の正答率を下回っている。	・三角定規やコンパスの使い方を復習しながら、図形を実際に描く時間を作るなどして身に付けていく。
測定	○時刻と時間の問題では、県の正答率を上回っている。 ●はかりの目盛りを読み取る問題では、県の正答率を下回っている。	・復習の機会を作るとともに、身近な所にはかりを常設するなどしながら、児童がはかりにふれることのできる機会を増やしていきたい。
データの活用	○棒グラフの正しい読み方については、県の正答率を大きく上回っていて、十分に理解している。	・棒グラフの読み方については、このまま継続して朝の学習の時間などをつかい取り組むことで、より定着できるようにしていく。

宇都宮市立上河内東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	65.3	60.2	59.2
	生命・地球	70.1	71.3	70.3
観点	知識・技能	73.4	73.4	72.3
	思考・判断・表現	63.7	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	59.3	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○音の性質や物の重さの問題では県の正答率を10ポイント以上上回っており、よく理解されている。 ○磁石につく物とつかない物を区別する問題では、県の正答率を上回っている。 ●ゴムを長く伸ばすほど物を動かすはたらきが大きいことを表から読み取る問題では、県の正答率を下回った。	・実験の結果についてはよく理解できている。しかし、実験結果を考察しどのようなことが導きだされるかなどを考えることに課題が見られるので、まとめや考察を行う時間を確保し、事実を関連付けて整理する力の向上を図る。
生命・地球	○身近な自然の観察に取り組んできたことで、虫眼鏡の正しい使い方や危険な生物の問題では、県の正答率を上回っている。 ○昆虫の育ち方のモンシロチョウのさなぎのようすの問題では、よく理解しており、正答率が9割以上であった。 ●太陽と地面のようすの設問で影の動きを問う問題では県の正答率を下回った。	・観点を定めた記録カードのつけ方や方位磁針の使い方などは、何度も繰り返して指導することで更なる定着を目指していく。 ・朝の学習などの時間を活用して既習事項を復習することで、知識の更なる定着を目指す。

宇都宮市立上河内東小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている。」「家で、テストで間違えた問題について勉強している。」「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている。」「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」「勉強していて、不思議だな・なぜだろうと覚えることがある。」という質問に対しての肯定割合が県の平均を上回っている。児童の学習に対する意欲が高く、真面目に取り組んでいることの表れであると言える。また、家庭学習に関しても決まった時間に取り組むなど、望ましい生活習慣が定着している児童が多い。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。」「授業を集中して受けている。」という質問に対しての肯定割合が県の平均を上回っている。友達との学び合いの楽しさを味わいながら、学習に積極的に取り組み、あきらめずに粘り強く学習している児童の姿がうかがえる。

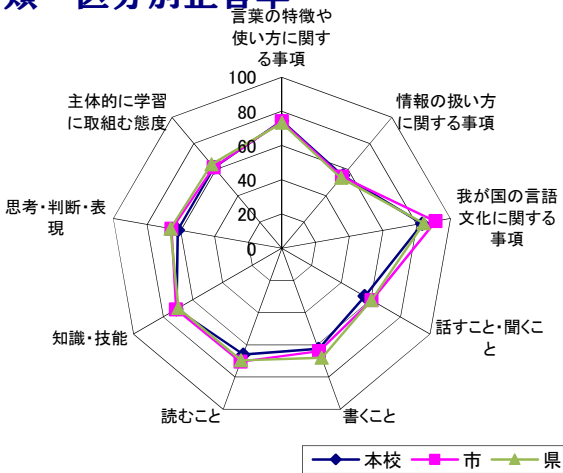
●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。」などの質問では県と同等の肯定割合であるが、今後伸ばしていきたい項目である。現在学年内には小集団での意見交換は好むが、大勢の前になると委縮してしまう児童も見られる。また、話を聞く立場になると最後まで話を聞けなくなる傾向も見られ、課題だと言える。自分の考えを話す機会を意図的に増やすなど、自分の考えを発言して学習に参加する意識もよりもたせていきたい。

●テレビゲームをしている時間が平日3時間以上の児童が4割になっていること、普段の生活では、新聞を読んでいる児童がほとんどいないことは活字離れにつながっている原因の一つであると考えられる。新聞を題材にした学習を取り入れたり、生活習慣を見直す機会を上手に活用したりしながら、きちんとした生活習慣を身に付けていきたい。

宇都宮市立上河内東小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	74.6	74.2	73.3
	情報の扱い方にに関する事項	55.6	54.7	53.8
	我が国の言語文化に関する事項	83.3	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	55.8	60.6	60.4
	書くこと	62.5	63.8	68.0
	読むこと	66.0	70.4	69.6
観点	知識・技能	71.1	71.3	69.9
	思考・判断・表現	61.7	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	61.7	61.9	64.0



★指導の工夫と改善

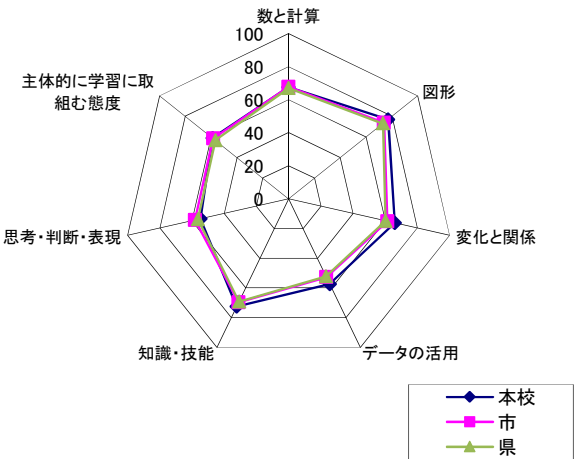
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○漢字を読むことについての正答率は県平均とほぼ同等であった。漢字を書くことについての正答率は県平均を上回った。 ●連体修飾語に関する問題では、本校正答率が県を20%近く下回った。	・今後も音読や漢字練習、国語辞典での意味調べ等を通して語彙力や漢字の読み書きの力を高めるよう指導を継続して行っていく。 ・文章の読み取りをする際には文の構成についても触れるようにし、修飾語がどの語を詳しくしているのか等、理解が深められるようにしていく。
情報の扱い方にに関する事項	○漢字辞典の使い方については、県の正答率を上回り、よく理解していると言える。 ●情報と情報の相互関係を問われる問題では、県正答率を若干下回った。	・情報と情報の相互関係を正確に読み取る力を高めるために、日頃の授業の中で、何について書かれている段落なのかを明確にして段落相互の関係をおさえたり、発表の際には理由や具体的な事例を挙げる練習をしたりしていく。
我が国の言語文化に関する事項	○ことわざの意味を問われた問題では、県正答率とほぼ同等であった。	・ことわざを授業で取り上げたり、ことわざについて調べた自主学習ノートを紹介したりするなどして、今後もことわざや四字熟語等の伝統的に使われる語句に触れる機会を設け、さらに関心を高めたい。
話すこと・聞くこと	○司会の役割を果たしながら話し合い、意見の相違点に着目して考えをまとめる問題では、県の正答率を10%近く上回った。 ●話し手が伝えたいことの中心をとらえる問題は、県の正答率を下回った。	・相手が伝えたいことは何なのかをとらえる力を高めるために、主旨を捉え要旨をまとめる活動を取り入れていきたい。 ・話すこと・聞くことについての正答率は個人差が大きかったことから、多くの児童が発表や司会といった役割を体験できるよう、学習活動を工夫していく。
書くこと	●文章を書く問題では、県の正答率よりもほぼ同等か下回る結果となった。	・条件に合わせて書くことができていても、問題の趣旨に合わない回答をしている児童がいることから、何を問われている問題なのか明確にするなどして、読む力と併せて書く力を伸ばしていけるようする。
読むこと	○説明文の叙述を基に文章の内容をとらえる問題では、県の平均正答率を上回った。 ●説明文で文章を読んで感じたことや考えたことを共有する問題、物語文で登場人物の心情の変化等を想像する問題での正答率は県平均を下回った。	・活用的な読み取りでの正答率が低いことから、段落のまとめや関連を意識しながら読んだり、登場人物の心情や情景を想像しながら読むことの習慣化につながるような学習活動を取り入れる。また、音読や読書等は引き続き励行していきたい。

宇都宮市立上河内東小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	67.6	67.8	67.0
	図形	77.1	73.9	73.1
	変化と関係	66.0	61.4	60.2
	データの活用	57.3	52.7	52.1
観点	知識・技能	72.5	69.7	69.2
	思考・判断・表現	54.8	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	58.9	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

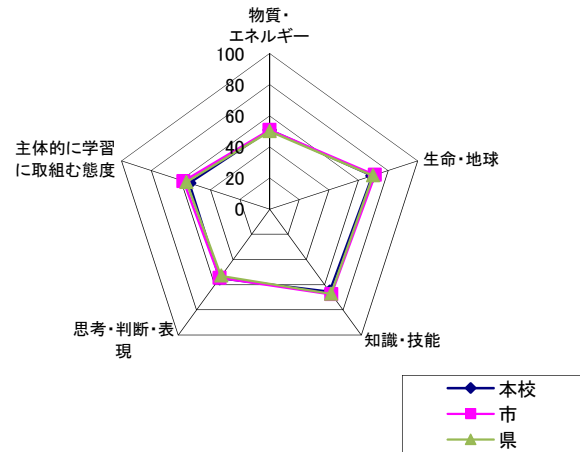
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○わり算の基礎的な計算や、計算のきまりに関する問題の本校の正答率は県を上回った。 ○小数や分数の基礎的な計算についての正答率は県を上回った。 ●いろいろな種類の分数の大小比較の問題や、上からある桁までの概数の表し方の問題の正答率は県を下回った。 ●わり算の計算の工夫のしかたに関する活用問題での正答率は県を下回った。	・分数の大きさや概数の表し方等、基礎的な内容でのつまづきが多く見られたことから、計算だけでなく、数の大きさや表し方についての復習も取り入れていく。 ・計算のきまりを使うことで簡単に計算できることを改めて確認・練習するとともに、自ら考え試行錯誤する時間を確保する。
図形	○図形に関する問題については、全体的に正答率が高く、県とほぼ同等か上回るものが多かった。 ●180度より大きい角を求める活用問題での正答率は県を下回った。	・図形の特徴や角の大きさの性質などの応用問題を授業や宿題で取り上げるなどして、さらに理解を深める。
変化と関係	○変わり方や割合に関する問題での正答率は県を上回った。	・伴って変わる2つの数量を式に表す問題や割合を使って比べる問題など、定期的に復習する機会を設けて、さらに力を伸ばせるようにする。
データの活用	○折れ線グラフの読み取りや二次元表の読み取りについての問題の正答率は県を上回った。 ●折れ線グラフと棒グラフを併せて読み取る問題では県の正答率を下回った。	・グラフなどからどんなことが読み取れるのかを考える活動を教科横断的に今後も行っていく。その中で2つの種類のグラフの関連などについても考える場面を設け、データを活用する力をさらに伸ばしていく。

宇都宮市立上河内東小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	50.8	50.8	50.0
	生命・地球	69.3	71.1	69.8
観点	知識・技能	65.6	67.6	67.2
	思考・判断・表現	54.7	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	54.2	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○電気のはたらきに関する問題での正答率はすべての項目で県を上回った。 ○もののあたため方に関する問題での正答率は、県より上回るか、ほぼ同等であった。 ●物の体積と力の内容では、結果を推測する活用問題での正答率が県より下回った。	・理科的な思考・判断・表現を問われる問題での正答率が低かったことから、学習内容を知識として理解するだけでなく、実験の結果を推測したり、既習事項を活用して事象が起きる理由を考えたりするような学習活動を設定し、指導していく。
生命・地球	○雨水のゆくえや地面のようすに関する問題では、正答率が県より上回った。 ○自然の中の水に関する問題では、正答率が県より上回るかほぼ同等であった。 ●1年間の動物のようす、動物のからだのつくりと運動に関する問題では、正答率が県より下回った。	・筋肉や関節といった動物のからだのつくりの基礎的事項が定着するよう、復習する機会を繰り返し設けていく。 ・日常生活においても、理科的な視点を持たせたり、理科にかかわる名称を意識させたりすることなどを通して、知識の定着や思考力の向上を図る。

宇都宮市立上河内東小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強している」、「家で、学校の宿題をしている」、「家で、授業の予習をしている」、「家で、学校の授業の復習をしている」、「家で、テストで間違えた問題について勉強している」、「家で、学校や塾で決められた問題のほかに自分で考えた勉強をしている」という問いに対する肯定的回答率はいずれも県の回答率を大きく上回り、家庭生活安定と、学習の意欲の高さがうかがえる。

○「勉強していておもしろい、楽しいと思うことがある」、「学習したことは将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」などの問いへの肯定的回答率が高く、学習することやその意義について前向きに捉えている児童が多いことが分かる。

○全体的に肯定的回答率が県よりも高く、本校児童の学習に対する意欲が高いと言える。

●「学校が休みの日に1日あたりどのくらい勉強をするか」という問いに対して、「まったくしない」、「1時間より短い」と答えた児童の合計がクラスの半数に達していた。休息も大切ではあるが、毎日こつこつと学習に取り組む習慣を身に付けられるよう指導したり、家庭との連携を図ったりすることで望ましい生活習慣の定着を図りたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しいか」を問われた問いに対して、「はい」と答えた児童の割合が県よりも高い結果となった。学校生活の中で、自分の考えをもち、それを文章にしていくなような学習活動を意識的に取り入れ、慣れることで児童の中にある苦手意識を軽減していきたい。

●テレビ・ビデオ視聴を平日4時間以上している割合が県平均を大きく上回った。ゲーム等も含め生活習慣の改善を図る指導を充実させたい。

宇都宮市立上河内東小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業におけるめあて・まとめ・振り返りの充実	学校全体で、めあて・まとめ・振り返りの板書を揃え、ノートに書く指導をしている。	「授業であつかうノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いている」の質問に肯定的に回答した4年生の児童の割合は85.7%で、5年生の割合は95.8%で、どちらも県の割合を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語の書くことの正答率が4・5年ともに県の正答率を下回っていた。	問題や資料から読み取って理解したことなどを自分の言葉で説明する文章表現力を付けるための学習の充実	学習状況調査の問題を参考にして、文章を書くための決まりを提示し文章を書かせるようにする。また、国語以外の教科でも、考え方の説明を文章で書かせることを日々の学習に取り入れていくようにする。